

日本医療機能評価機構による病院機能評価、訪問審査を終えて 病院長補佐(病院機能評価担当)、病院機能評価受審対策チームリーダー 原渕 保明



2月3日病院概要説明

2月3～5日の3日間、日本医療機能評価機構による病院機能評価（一般病院3）の訪問審査がありました。この3日間、12名の評価調査員（サーベイヤー）が来院し、事前に送った当院の現況調査票と自己評価調査票の審査、および病棟のみならず、外来や各中央管理部門や事務管理部門への訪問・面接調査がありました。この3日間で190名の医療職や事務職が審査に参加しました。この参加人数には評価調査員からも高く評価され、旭川医科大学病院の高い結束力を見せつけることができましたと思います。訪問審査に関わった皆さまには厚く御礼申し上げます。



2月4日ケアプロセス調査（6東）

病院機能評価とは、(公益財団法人)日本医療機能評価機構が行う事業のひとつであり、我が国の病院を対象に、病院の質改善活動、組織全体の運営管理および提供される医療について、日本医療機能評価機構が中立的、科学的・専門的な見地から評価を行う事業です。病院機能評価は、国民が安全で安心な医療を受けられるよう、4つの評価対象領域（患者中心の医療の推進、良質な医療の実践1、良質な医療の実践2、理念達成に向けた組織運営）から構成される評価項目を用いて、病院組織全体の運営管理および提供される医療について評価します。現在、全国での認定されている病院数は2166になります。

当病院でも、5年前に受審し、当時最も審査基準の

厳しい「一般病院2」の評価を得ています。2018年から、大学病院、特定機能病院を対象とした「一般病院3」という種別が設けられ、以前より評価項目がより一層多くなりました。当病院でも昨年1月に病院機能評価受審対策チームを発足させ、計4回の対策チーム会議、12月～1月には計6回の模擬訪問審査を催し、準備して参りました。受審3日目の評価調査員からの講評では、比較的良好な評価が多く見受けられましたが、種々の面で早急な対応や改善を要する事項を指摘されました。

病院機能評価はこの訪問審査で終了した訳ではなく、後日文書で報告を受ける講評で指摘された事項について、もう一度、当病院で対応や改善を行います。そうして、その結果について再度評価を受け、合格水準に達していたならば最終的に認定されることになります。病院機能評価は、マニュアルの改正や職員の意識改革、基準の見直し等の医療の質の改善のみならず、チーム医療の促進や他職種間の理解力が深まり、連携強化につながります。それには、対策チーム、各部署、事務職の皆さまを含めた旭川医科大学病院職員が一丸となって取り組んでいかなければなりません。どうかご協力の程、宜しくお願い申し上げます。



2月4日部署訪問（病理部）